



最優秀賞

設計部門



3rd MINAMI AOYAMA

株式会社三菱地所設計
梶隆之・本田輝明・芥隆之介
大林ランドスケープ設計事務所
大林万里江

都心部における民間事業者の開発にて、地域に開かれたポケットパークと貫通路を創出した計画である。計画敷地は、大規模開発が進む青山通りとこれに直交する外苑西通りに面し、商業地域と住居地域を跨いで位置する。青山エリアでは、表通りから一本小路へ入ると、住宅地のスケール感を併せ持つ街区

構造により、ブティック、庭先の植栽等、街の小刻みなシークエンスを楽しむことができる。また計画敷地には、低層階にスーパー、上層階に公団住宅といった用途の建物が建っていたことから、元来ヒューマンスケールを備えた敷地であることがわかる。本計画では、表通り（都市スケール・商業地域）と小路（ヒューマンスケール・住居地域）により生まれる都市の二面性こそが、本敷地が持つ魅力と捉え、これを引き出していくランドスケープを目指した。街づくりの観点からは、ここに青山通りと外苑西通りを繋ぐ

作品概要

- 作品名—— 3rd MINAMI AOYAMA
- 所在地—— 東京都港区南青山3-1-34
- 発注—— 有限会社五光、三菱地所株式会社
- 設計—— 株式会社三菱地所設計・大林ランドスケープ設計事務所
- 設計協力—— 照明デザイン ソラ・アソシエイツ
外構家具 インテリアズ
外構築山設計施工 パーク・コーポレーション
サインデザイン 氏デザイン
- 監理—— 株式会社三菱地所設計
- 施工—— 鹿島建設株式会社
- 設計期間—— 2018年9月～2019年11月
- 施工期間—— 2021年1月～2023年2月
- 規模—— 敷地面積 2,405.82㎡
- 主要施設—— 事務所、店舗

作品評

本作品は、東京都心部の民間オフィスビル開発地におけるポケットパークと貫通路の整備に、計画・設計から工事監理まで一貫して携わったものである。都心の商業・業務地で進められている建築物と調和した緑・オープンスペースの創出は、都心の景観・環境の改善と、風格あるビジネス街の形成に大きく貢献しており、また、ランドスケープの可能性を広げる大きな発信力になっている。本作品は、青山の街と2つの道路に面している特性を活かし、周囲の街との回遊性を重視した空間を創出することで、「歩いて楽しい街づくり」を目指したものであり、その視点の正しさが全体の空間構成、小刻みなシークエンスの変化、潤いと多様性のある植栽などの巧みなデザインと結びついて、心地よさと楽しさの感じられる空間が生み出されている。植栽についても、約100種類の高中低木・生垣・地被類・プランター緑化植物が植栽され、歩きながら四季の美しさと緑の多様性が立体的に目に飛び込んでくる秀逸なデザインとなっている。説明資料は、文章・図面・写真が効果的に配置され、現場の雰囲気や臨場感を持って伝わってくる構成となっており、こうしたプレゼンテーション力を含む作品の質の高さが総合的に評価され、最優秀賞に選出された。



小路のような貫通路を整備し、その途中に緑豊かなポケットパークを設け、敷地内で完結することなく、南青山三丁目交差点を中心とする回遊性へ発展するような、歩いて楽しいまちづくりを目指した。ポケットパークは、オフィスワーカーにとっては、気分転換を促し生産性をあげることにつながる補完的なワークプレイス、地域の方々にとっては、自由に利用できる憩いの空間となる。貫通路には天井高8mの開放的な都市スケールのピロティ、ポケットパークには森の木陰となる散策路が配され、それぞれ

を煉瓦壁・コンクリート平板床・特注ベンチなど素材感が感じられるデザインにて設え、都市スケールとヒューマンスケールが共存したデザインとした。建物が運用されてから、季節の良い時期はもちろんのこと、真夏日でも木陰となるポケットパークでは、ランチやリモートワークをしているワーカーや近隣の園児のお散歩を目にする。これからも地域に開かれ、愛され、良質な空地として活用されることを願っている。

設計部門